

社会的責任に関する円卓会議メンバーと仙谷大臣の懇談（冒頭仙谷大臣挨拶部分）

（平成22年2月22日（月）17：30～19：00 於）内閣府本府5階特別会議室）

今度、内閣の中で「新しい公共」を担当せよという使命を受けております、仙谷でございます。今日は、大変皆さん方お忙しいところをやりくりをしていただきまして、久しぶりに開かれます「社会的責任に関する円卓会議」の皆様方との懇談会に御出席をいただいておりますことを、心から厚く感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

この円卓会議は、昨年3月に設立されたと伺っております。政権交代があり、他のことで少々次から次へと難題が出てくるものですから、私ども政府の方で、その後のこの会議に対する姿勢が定まらずに、皆様方に御迷惑をかけたり心配をかけて、誠に申し訳ないことだというふうにお詫びを申し上げたいと存じます。

今後とも政府も、発起人、出席者のワン・オブ・ゼムということで、そういう立場をわきまえつつ、皆様方と一緒に、この円卓会議で成果物を得られるように、まさに協働をしてまいりたいと思っております。

鳩山内閣は御存じのように、国民一人ひとりが居場所と出番をつくり、見出す、そういうことができる社会をつくろう。ある意味で21世紀型の市民社会で一人ひとりが輝ける社会をつくっていかうということが、大変大きな目標であり理念になっております。

そういう社会を実現するためには、多分いろんなステークホルダーの方々がいらっしゃるわけですが、それぞれが対話をし、一緒に何かを行う、そして共鳴して、新たな関係性をつくり出すことがますます重要になってきているんだろうと思います。そういう観点から、この円卓会議というのは非常に重要な役割を果たしていただけるし、政府もその一員として、政府が何をすればいいのか、してはいけないのかということも考えつつ、皆さん方の御意見を承ってまいりたいと思っております。

NPOの方々もいらっしゃいますし、いろんな関係団体の方がいらっしゃいます。政府の皆様方それぞれ、あるいは団体との位置関係というのは、時代がここまで来ますと大変難しい、つまり、新しい定義が必要なんだろうと私自身は思っておりますが、ただそれも共同で行動をする中でつくり出していくしかない。つまり、頭の中であれやこれや考えてみたところで、世の中そのように動かないことは間違いないわけですから、皆さん方の実践、経験を踏まえて、それをどこまで普遍化し、なおかつ、それをまた実社会に適用、適応できるかということ、私どもも一生懸命考えてまいりたいと思っております。できることは直ちに実行するという構えで、これから皆さん方とお話し合いもしたいと思っておりますし、実行責任がある部分については思い切って実行するというにさせていただきたいと思っております。

いずれにしても、政府も一員ということであり、この運営スタイルも新しい仕組みであると考えておりまして、大いに期待をいたしております。

本日は、政府として引き続きこの「社会的責任に関する円卓会議」に参加、参画するに

当たりまして、鳩山内閣への期待、あるいは今後の進め方について率直な御意見をいただければと思っ参加をさせていただいたところでございます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

(以上)